

# 出来事ファイル (No.21-3)

## ■走水神社パンフ登場

走水神社は、元栄海地区にある唯一の神社。栄町通には、同神社への案内標識も設置されている。御神徳は「家内安全・厄除開運・十三詣・合格祈願・学業向上」で、天照大御神・応神天皇・菅原道真公をお祀りする。同神社略誌によると「付近住民は崇敬神が篤く多年願望せし昇格運動の際元町通5,6丁目部落共有財産を挙げて寄付したのが現在の社有地」とある。いま元町商店街主催のまち歩きでは住職自ら同神社の来歴を説明、初登場の同神社作成パンフレットとともに好評を博している。



## ■元町ランチマップ お目見え

元町商店街では、気軽に元町で昼食をと「みなと元町ランチマップ」を製作した。紹介しているのは1番街から6丁目まで、ランチを楽しむ24店舗。売り物メニューを拾ってみると、和食では親子丼セット・ミニ会席に海鮮寿司ランチ、いなり定食、塩焼定食、炭火焼き鳥井、讃岐うどんなど。洋食メニューはグラタンセットにはじまりピラフ、チーズカレー、オムライス、ミックスフライなど。メニューだけでなく、味わい方まで指南する店も。外出自粛が呼びかけられるなか、テイクアウト可能店舗も表示されている。



## ■i-letter1月号

NPO法人あいあいネット神戸が「i-letter」51号を発行した。木村代表理事は「街角サロンのフル活用と神戸駅前に保存されているD511072号機を、ボランティアの皆様達との保守整備でデコイチファンを増やし、神戸駅前・西元町地域のさらなる“にぎわい”をめざしていく」とあいさつ。2面では「神戸・西元町のD51を守る会」代表の飯野浩三氏が、D51を守る会2021年の展望を、3面では生け花作品展や太極拳講座の実技指導などを紹介している。



## ■役員会休会 緊急事態措置で

新型コロナウイルス感染者の拡大で、1月13日、神戸市も緊急事態措置対象地域に指定されたのを受け、2月開催の「タウン協議会役員会」「元町ハーバー懇談会」を休会した。神戸市は不要不急の会合開催を避けるよう指導しており、開催する場合、3密を避けるため「定員の半分の人数または最少1mの間隔を確保すること」などとしている。両会とも、開催当日、外部からの参加者や、事前に提出された審議事案はなかったが、急ぎの事案が発生した場合、事務局を通じて関係委員と協議、対応することに。



## ■海浜に行く連節バス開業

神戸市は4月1日から、開発が進むウォーターフロントへのアクセス向上と賑い創設のため、神姫バスを運行事業者に「連節バス」による新しい路線を開設する。神戸らしく青と白を基調にしたデザインでバリアフリーにも配慮、連節バスの全長は約18mで112人乗り。運行ルートは、三宮駅前から東遊園地/KIITO前/新港町/ポートタワー前/ハーバーランドまでを巡り、約45分で三宮に戻る。4月から2台で運行し、平日は1日19便、土日祝は同24便運行、7月から4台を投入、増便を予定している。運賃は大人210円、子ども110円。三宮から新神戸、ハーバーランドから神戸駅までの延伸も予定している。



## 神戸元町商店街 楽市楽座 情報 3月

### ◇こへまちづくり会館ギャラリー(無料) TEL361-4523

3月4日(木)~3月9日(火)赤窓会100周年  
3月12日(金)~3月16日(火)  
地形図・鳥観図・空中写真で見る中央区周辺  
【\*緊急事態宣言が延長された場合、変更になる場合がございます。】

### ◇元町映画館(有料) TEL366-2636

2月27日(土)~3月5日(金)  
「ひとくず」・「いつか、どこかで」  
「イサドラの子どもたち」  
2月27日(土)~3月12日(金)  
「チャンシルさんには福が多いね」  
3月6日(土)~3月12日(金)  
「戦車闘争」・「眠る虫」・「次世代映画ショーケース」  
3月13日(土)~3月19日(金)  
「おかえりなさい」  
3月13日(土)~3月26日(金)  
「春江水暖」・「パッパロー」66

3月20日(土)~3月26日(金)  
『にきたショパン』・  
『NO CALL NO LIFE』  
3月27日(土)~  
『生きる 島田勲・戦中最後の沖縄県知事』  
【\*緊急事態宣言の下、時短営業の為予定は変更になる場合がございます。】



### 編集後記

前任の坂田道治編集長から引き継いだのは平成6年1月発行の第31号から。元町の隣接した三宮の、路地裏の一角にあった小さなスタジオで、初代の兼田会長と知り合ったのが縁だ。当時、月刊「みなと元町タウンニュース」が発行されていたことは知らなかった。知ったのは、兼田会長からニュース発行の協力依頼を受け、毎月の役員会に参加するようになったからだ。坂田編集長は、元町5丁目化粧品店を営みながら4丁目へのパチンコ店出店問題に深く関わってきた上、協議会発足とともに事務局を引き継ぎ、月刊のタウンニュース編集・発行まで担当、定例役員会当日、刷り上がったばかりのニュースを小脇にかかえて現れた先輩編集長の、いつも時間に追いかけていたような姿を思い出す。▼前編集長に、30年を迎える協議会を、声で届けることができたいの寂しい。

## ■栄町通クリーン作戦

新型コロナウイルス感染症への対策として、クリーン作戦は中止となりました。毎月第2金曜日午前10時、栄町通6丁目佐田野不動産前集合の上、実施しています。お気軽にご参加ください。

# みなと元町 TOWN NEWS

ヨウコニュース



発行:みなと元町タウン協議会 住所:〒650-0022 神戸市中央区元町通3-13-1協和会館内 発行人:奈良山喬一 編集人:岩田照彦 電話・FAX:078-391-0831

## 24時間・365日、安全で安心な水の安定供給に向けて

神戸市水道事業管理者 山本 泰生



みなと元町タウン協議会のみなさまにおかれましては、平素から神戸市水道事業にご協力をいただき誠にありがとうございます。

特に元町地域においては、平成30年度より毎年、6月に元町3丁目商店街において水道水の試飲やタンク車の展示など、水道週間イベントを開催させていただいております。残念ながら今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催できませんでしたが、これまで開催にあたって、みなさまの多大なご協力をいただいておりますことを改めてお礼申し上げます。

昨年3月に市内初の新型コロナウイルス感染が確認されてから1年が経過します。新型コロナウイルス感染拡大の影響はいまだに収束する気配が見えず、世界中に深刻な影響を与えています。本市水道事業も例外ではなく、そもそも人口減少や節水型社会の進展などにより水道料金収入は減少傾向にあったところ、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、あらゆる経済活動が影響を受け、水道料金収入の大幅な減少を見込んでいます。今後もコロナ禍の影響は先行きが不透明で、料金収入により事業

運営を行う水道事業として、危機感を募らせているところです。

収入が減少する一方、ライフラインとしての使命を果たしていくために必要な施設整備を行わなければなりません。本市は、市域の中央部に六甲山系とともに、市内に水源となる大きな河川がなく、水源の大半を琵琶湖・淀川水系に頼っているため東から西に送水していることなどから、他の水道事業者と比較して配水池やポンプ場、送水トンネルなど多くの施設を要しています(平野が多い大阪市と比べ、神戸市の施設は圧倒的に多い! )。

24時間365日安全な水を安定して供給するには、これらの多くの施設を運転・運用し、維持管理を行い、経年化した施設については計画的に更新していく必要があります。特に、市内に4,800kmある配水管のうち、高度経済成長期に整備した膨大な管路が更新時期を迎えるため、今後10年間で約1,300億円の施設整備が必要になります。

本市は阪神・淡路大震災において多くの水道管が被害を受け、復旧に時間を要した経験と教訓を生かし、災害対策に力を注いでいます。ハード面では、各施設を経年化に伴い更新していくことで耐震化をあわせて進め、大容量送水管など災害に強い施設の整備にも取り組んでいます。ソフト面では、危機管理対策マニュアルや事業継続計画に加え、万が一、大規模災害時に支援を受ける際に応援受入れ及び支援事業体用の受援マニュアルを策定、地震・風水害の被災事業体に積極的に支援活動を行うことによる職員のレベラップなどに取り組んでいます。

新型コロナウイルスの感染拡大に対しても、新型インフルエンザ対策実施

計画をもとに「新型コロナウイルス対策実施計画」を策定し計画的に対応するなど、コロナ禍においても安全で安心な水を安定して供給するという、水道事業者としての責務を果たしてまいります。社会が「withコロナ」の時代に対応し、新たな生活様式へと変化していくなか、水道事業についても、これまで以上にICT/IOTを活用し、各種手続きのオンライン対応の拡充や更なる情報発信の強化に取り組むことで対応していきます。例えば、水道工事にかかわる工事事業者・水道局双方にとって効率的な進捗管理や履行確認、検査方法などを積極的に検討・導入します。

水需要の減少、自然災害・気候変動、水道法の改正、更新費用の増大、必要な人材の確保・育成など、今後も水道事業を取り巻く環境はますます厳しいものになると考えています。水道事業をとりまく環境の変化に適切に対応し、計画的な事業展開に取り組むとともに、経営改革を着実に進め、社会経済情勢の変化や施策の効果を見極めながら目指すべき姿の実現に取り組んでいきます。

最後になりましたが、新型コロナウイルスが猛威を振るうなか、みなさまの益々のご活躍とご発展を祈念いたしますとともに、安全で安心な水の安定供給に水道局は全力で取り組んでまいりますので、水道事業にご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



水道局 イベントの様子



## 海という名の本屋が消えた (88)

平野義昌

## 諏訪山界限(6)

神戸在住文学研究者の著書で神戸諏訪山と夏目漱石(1867～1916年)・正岡子規(1867～1902年)との縁を知った。註1

漱石の本名「金之助」。生家は江戸近郊の名主。英語教師、英文学者から小説家に転身。作品は風刺、ユーモア、苦惱、幻想……、日本近代文学の巨人である。

子規は松山藩(維新では幕府方)武家の生まれ、本名「常規(つねのり)」、通称「升(のぼる)」。新聞記者、俳人、歌人、小説家、随筆家。俳句・短歌の改革に努力した。多くの方が「柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺」の句をご存知だろう。結核を病み、晩年約7年間激痛に耐え、病床で書き、詠み続けた。母と妹が介護し、文学仲間と弟子たちが活動を支えた。1897(明治30)年創刊の俳誌「ホトトギス」は現在も刊行中である。俳句の弟子に高浜虚子(1874～1959年)と河東碧梧桐(1873～1937年)、短歌の弟子には伊藤左千夫(1864～1913年)、長塚節(1879～1915年)がいる。スポーツ好きで、ベースボール普及に大きな役割を果たした。上野公園に正岡子規記念球場がある。

漱石と子規は東京大学予備門(のち第一高等中学校、現在の東京大学教養部)、帝国大学文科大学(現在の東京大学文学部)で同級。幼時から漢籍の教育を受け、文学を志し、スポーツや寄席を好んだ。教養、趣味、気性が合う親友だった。共に立身出世の家柄ではないが、子規は土族の誇り高く、漱石と「生まれ」「教育」問題で論争したこともある。註2

ふたりと神戸の関係を追ってみる。〈漱石にとって、神戸とは通り過ぎていく街だった。〉(註1)と研究者が述べているが、子規にとっても同様である。神戸は東海道本線と山陽本線乗り継ぎ駅であり、汽車から船(外国航路・国内航路)に乗り換える港である。1892(明治25)年6月、ふたりは帝国大学夏休みに旅行。京都観光後、漱石は神戸駅から岡山に行き縁者宅に滞在。子規は神戸港から松山市三津浜港。7月岡山で漱石は水害に遭い、8月松山の子規に合流。8月末神戸港到着、大阪・京都を観光。七夕の日、子規は神戸布引の滝を訪れている(註3)。(「布引も願ひの糸の数にせむ」)註4

子規は学年末試験に落第、帰省中に退学を決意した。95(明治28)年4月、漱石は愛媛県尋常中学校赴任。山陽本線広島、船で松山。註3

同年初め、子規の従弟・藤野古白(ふじの・こはく、本名・潔、1871～95年)が戯曲「人柱築島由来」を発表。平清盛兵庫津築港伝説を基にした。暴風雨で工事が難航、陰陽師が龍神を鎮めるため人柱30人必要と占い、旅人狩り。清盛侍童・松玉丸が身代わりになり、海中に沈む。人びとは供養のため一切経を書写した石を投げ入れ、これを基礎に「築島(つきじま) (経ヶ島)が完成。清盛は松玉丸を用い来迎寺(通称築島寺)を建立した。註5

古白作品では平家に追われた女性と松玉丸の恋が絡む。戯曲完成後の4月、古白はピストル自殺。遺書に「現世に生存のインテレストを喪ふに畢りぬ」とあった。古白は神経を病んでいたうえ、作品を「黙殺」された失意と失恋が原因だった。註6

子規は新聞「日本」記者として日清戦争に従軍中。戦地で死を悼んだ。〈春や昔古白といへる男あり)註7

同年5月の子規帰国船内略血と東立神戸病院入院は本稿で紹介した。危篤状態を目の当たりに

した碧梧桐の回想がある。

〈……戦時中の事と言い、殊に船内のコレラ騒ぎと云い、一新聞記者の疾病などは九牛の一毛にも値いしない一些事と看過されたのであろうが、約一週間略血しつづけて、何の手当てもうけなかった子規の運命が、かくまで早く光明を見ようとは予想の外だった。〉註8

子規の幼なじみ神戸師範学校教授・竹村鍛(きょう、1865～1901年、父・河東静溪は子規の漢学の師、碧梧桐は弟。竹村は母方の姓)と虚子が駆けつけた。続いて碧梧桐が子規の母親に付き添って到着。〈日清戦争から帰って、病い危篤に瀕した時母堂に侍して西下した。ベッドもカーテンも真白な、神戸病院の一室にのぼさんを見出した時は、息もつまるようだった。少し元気が出て、何か食べて見たいと言い出したのが、丁度時候から母であった。毎朝病院の上へ、苺を摘みに行く。それが虚子と私の交代の日課だった。朝まだ日の出ない時分、露と一所に病床に持って行くのがだった。何かしら頼ましい病人の喜ぶ顔を見る、アアいう愉快的な苺摘みは、再び経験されない、尊くも潔い日課だった。〉註8

病院から諏訪山は近い。弟子の献身で徐々に体力を持ち直した。〈諏訪山の苺が子規の命をつないだのである。〉註1

後に子規が果物随筆を書いている。〈いちごは西洋いちごを善しとす。(中略)神戸に病みし時物一つ咽を通らず乳さえ飲み得ぬに、わがためにと碧虚二子の朝な朝な諏訪山の露を分けて一籠の赤き玉をもたらしたるこれに一日の腹をこやしたるもわりなしや。〉註8

帰京後、子規は自宅の庭で西洋苺を栽培した。翌年子規が勉学に悩む虚子に手紙で励まし、句を添えた。〈いちご熟す去年の此頃病みたりし)註7

現在、苺は品種改良や農法の進歩で年中食せるが、元来春から夏のもの。夏の季語である。『兵庫県大百科事典』(註10)は子規らの記述をもって、明治27～8年に諏訪山でイチゴ栽培の事実があった証拠、としている。居留地の外国人が持ち込んで栽培を依頼したものだろう。神戸郊外で苺が本格的に栽培され始めたのは1920年代ということだ。註11

漱石は入院中の子規に手紙で見舞いと古白死を悔やんだ。7月、子規は生命の危機を脱し、須磨保養院に移る。療養中、多くの句を残している。須磨寺に句碑が建つ(写真)。8月末、松山の漱石下宿で生活。10月、大阪・奈良を観光して帰京。「柿くへば」はこの時の作品。生命力・食欲回復の朗詠と知る。子規にとって神戸は命拾いをした街である。補註

96(明治29)年1月、漱石は東京で正月休みを過ごし松山に戻る途中、神戸で下車。〈竹村鍊郷を訪れ、築島寺(来迎寺の俗称。神戸市兵庫区島ノ上町四十二番地)や神戸港に突き出た和田岬を見物する。〉註3

「鍊郷」は鍛。参拝は古白の用いである。

97(明治30)年3月、子規は発熱と痛みに耐え、古白遺稿集をまとめた。虚子に宛て、「やりかけたらほうっておけぬ小生の性質故、今夜伝を書きあげて快に堪えず」に「ことに今夜は八度六分まで上り居り候えども責任をはたさんとする心熱は体熱に打勝ちて重荷の下りたるように寛え候」と報告している。註7

5月『古白遺稿』発行、三周忌の記念である。古白の作品に加え、子規が「藤野潔の伝」を添え、坪内逍遙と島村抱月が追悼文、友人たちが句を寄せた。「思ひ出すは古白と申す春の人(漱石)」「古白死し

て二年櫻咲き吾病めり」(子規)註12

1900(明治33)年6月、熊本第五高等学校(熊本大学の前身)赴任中の漱石はイギリス留学準備のため帰京。8月、子規は多量略血し、漱石との永遠の別れを予感した。註7

9月8日8時、漱石横浜港出航、9日10時30分神戸港着。

〈……大阪市に住む鈴木禎次・時子(鏡の妹)引用者註、妻鏡子の妹)夫妻見送りに来たが行違いで会えず、残念に思う。鈴木時子から饞別に万年筆を貰う。諏訪山温泉(鉱泉、現在、展望台)の中常磐で湯に入り、浴衣がけで日本料理の昼食をする。〉註3

漱石は出航待ち時間に諏訪山温泉入湯。親戚に会えなかったが、饞別は受け取れた。夜は同室の芳賀矢一(国文学者、同級生)と食事、下痢で食べられず。22時神戸出航。註3

漱石神戸出航の日、子規の住まい子規庵に弟子たちが集まり句会。好きな鶏頭の花を詠んだ。「鶏頭の十四五本もありぬべし」註7

02(明治35)年9月19日未明、子規は息を引き取る。前日の「糸瓜咲て痰のつまりし仏かな」など3句が辞世になった。

11月下旬、ロンドンの漱石は虚子・碧梧桐からの手紙で子規の死を知る。「筒袖や秋の柩にしたがはず」など数句を返信した。12月帰国の船に乗り、翌年1月22日神戸港着。検疫後、栄町通の西村旅館で休息し、24日東京着。27日(研究者推定)子規の墓に詣でた。註3

現在子規庵は関係者の尽力で保存・維持されている。51(昭和26)年留守番のアルバイトに神戸出身の学生が応募したが、酒好きで断られた。名を野坂昭如という。註7

註1 西村好子『やさしい漱石』不知火書房2020年  
註2 『漱石全集 第二巻 書簡上』岩波書店2004年  
註3 荒正人『増補改訂 漱石研究年表』集英社1984年  
註4 『子規全集 第一巻 俳句』講談社1975年  
註5 田辺真人『神戸の伝説 新版』神戸新聞総合出版センター 1998年  
註6 『明治文学全集 八六 明治近代劇集』筑摩書房1969年  
註7 森まゆみ『子規の音』新潮文庫 2019年  
註8 河東碧梧桐『子規の回想』覆刻版 沖積舎 1992年 原文旧仮名旧漢字  
註9 正岡子規『松羅玉液』ちくま日本文学全集037『筑摩書房1992年  
註10 『兵庫県大百科事典』神戸新聞出版センター編・発行1983年  
註11 『KOBÉ 神戸市広報紙』2021年1月2日  
註12 正岡子規編・発行『古白遺稿集』1897年  
補註 子規は東大寺近くの宿でも柿を大量に食べた。鐘も鳴った。上掲『ちくま日本文学全集037』写真 須磨寺句碑(暁や白帆過ぎ行く蚊帳の外)



## 乙仲通 界限の魅力と可能性

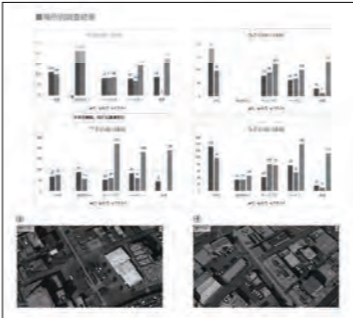
乙仲さんぽ活動報告 8

## 店舗へのヒアリングと提案

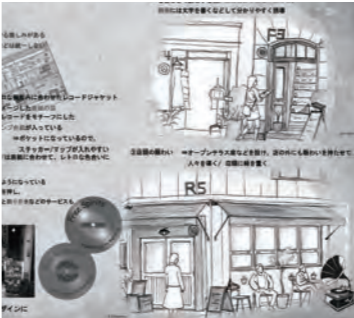
乙仲通デザインワークショップでは、2015年度にまちあるきで見つけたテーマに沿って、地域住民を交えたグループワークを重ね、「地域の魅力と課題」をリサーチ、分析しました。2016年度には多くの大学生を募り、具体的な「地域への提案」をコンペ形式で行いました。

そして、これらの活動の実績と問題点の把握を下敷きに、2017年度には乙仲通界限の実際の店舗にヒアリングを行い、より現実的で実現可能な提案につなげようと考えました。

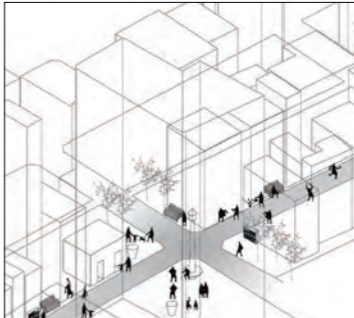
4つのグループに分かれた学生たちと委員会のメンバーは、まずは、まちあるきや店舗への挨拶を通じて、地域への理解を深め、ヒアリングの内容を整理、統一しました。その後、グループ毎に店舗へのヒアリングを行い、多くの興味深いまちの声を収集しました。個性的で魅力的な乙仲でのまちづくりに対する意見は、乙仲全体の統一感のあるイメージアップと、統一感を嫌い独自性を重視する各店舗の個性の



Aグループ 「ふらり、寄り道 乙仲通」



Bグループ 「神戸乙仲通Map&amp;Record」



Cグループ 「乙仲停留所」



Dグループ 「夜乙仲」

## 乙仲の魅力と「まちづくり」

淡路島で生まれ育った私にとって、神戸は憧れの大都市でした。とりわけ、中高生の頃、高速艇が着く中突堤から三宮方面に歩いていった元町、栄町界限は、いつかはこんなところで生活してみたいという人生の目標的な街でした。月日は流れ、東京で建築設計の仕事をしていった私が神戸で独立することになったのは、様々な偶然が重なったことでしたが、これらの記憶も大きな影響を与えてのことでした。

神戸に移り住んだころ、いや、住み始める前から乙仲の隠れ家的なお店の魅力にはハマっていました。この街の居心地の良さに魅せられて乙仲のランドマークたる栄町ビルディングに事務所を構えることにしました。

そんな私が日本建築家協会が乙仲で「乙仲さんぽ」と称するワークショップをやっていることを知ったのはようやくにも2016年の半ば、ワークショップが始まって1年半も経ってからでした。さっそく仲間に加えていただき、以降

間で揺れ動きます。ヒアリングで得た情報や印象を基に具体的な提案に向けてのグループワークを行い、年度末に地域の方々や、建築や都市の専門家に向けて提案を発表、意見交換を行いました。

Aグループは「ふらり、寄り道 乙仲通」と題し、ヒアリングによるお店どうし、建物と道等のつながりが不足している等の課題に対して、乙仲通の人の流入・流出・通過人数の調査を行いました。

Bグループは「神戸乙仲通Map&Record」。マップの重要性をヒアリングで把握し、個性を大事にする店舗の多い乙仲通界限で、画一的にならないようなマップやスタンプラリー台紙、ステッカーとそれに呼応する各店舗のナンバー表示を素敵なイラストで表現しました。

Cグループの提案は「乙仲停留所」。ヒアリングで明らかとなった様々な問題点を改善すべく、乙仲に存在するすきま空間に多種多様な「停留所」本棚やベンチ、トイレ等を設置する

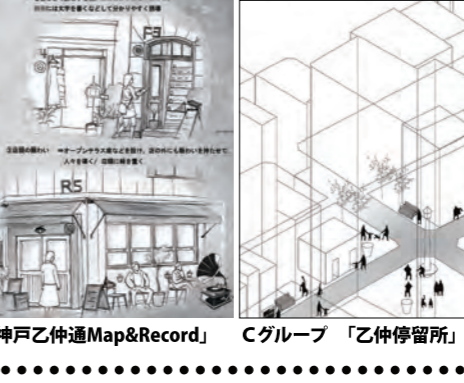
公益社団法人 日本建築家協会 近畿支部 兵庫地域会  
乙仲通界限デザインワークショップ 実行委員会

ことにより、乙仲通界限に雑多性を保ちつつも、ひとつの共通認識を暗に示すことを期待するものでした。

Dグループは夜の乙仲通界限が暗くて人通りが少ないことをヒアリングからの課題として捉えました。そして、ヨーロッパや日本の素敵な街の夜景をお手本に、夜の乙仲にふさわしい実現可能な7つの提案「夜乙仲」を発表しました。

いずれの案も実際に乙仲通界限で営業されている店舗の運営者からの生の声に基づいた提案で、今すぐにも実現できそうな案も少なくありません。これらの提案を乙仲通の魅力を活かしたまちづくりに、役立てていただければと考えています。

また、これらのまちづくり提案の手法は、乙仲通界限だけでなく、魅力と課題を抱えた他の街の「まちづくり」にも活かせるものと思います。是非、参考にさせていただき、必要であれば、日本建築家協会近畿支部兵庫地域会にお声がけください。



数年、いろいろな課題や矛盾について考え、話し、悩みながら「乙仲さんぽ」しています。

乙仲の魅力は誤解を恐れずに書いてしまうと、さびれつつある港湾街の家賃の安いテナントに自然発生的に個性的な店舗が隠れ家的に点在しているところにあると考えられます。

これらの自然発生的で個性的で隠れ家的な街並みに、はたして「まちづくり」なるものは必要なのか?いくら優れたデザインであっても統一感のある街灯で明るく照らされ、わかりやすくサイン計画することは個性的で隠れ家的な魅力を薄れさせてしまわないか??さらに「まちづくり」がうまくいって、街が発展し、家賃があがった場合、若い経営者が個性的な店舗を出店できるのか???

まちづくりの計画は、そもそも誰のために行うべきなのか?お店の人?土地やビルのオーナー?街に買い物に来る人?地域の住民?地域と関係のない建築家はまちづくりに参画すべきなのか??役所はまきこむべき対象???

神戸の中心部にほど近いこの場所が人気の

マンション街に変貌しつつある昨今の状況は悲しむべきこと?受け入れるべきこと??喜ぶべきこと???

知れば知るほど、考えれば考えるほど、クエストマークは増えていきます。「まちづくり」というものは、様々な立場の人の様々な利害が絡み合う複雑なものだとは思いますが、乙仲通界限の状況は、ことに複雑に込み入って、正解を導き出すことは面倒で厄介で困難、いや正解なんかそもそも存在しないのではないのでしょうか。

様々な矛盾や課題を抱えるこの街だから、魅力的で人々の興味をひきつけてやまないのでしょうか。そして私たちは、正解のない「まちづくり」の正解を探し求めてまいります。



山岡 哲哉(やまおか てつや)

山岡哲哉建築設計事務所 代表

日本建築家協会近畿支部兵庫地域会  
地域まちづくり委員長/2020-乙仲通  
界限デザインワークショップ実行委員長